

論文内容要旨

論文題目

化学療法を受けている膵臓がん患者の健康関連 Quality of life の特徴と栄養に関連する指標・食の苦悩の実態との関連

教育・研究領域：生涯生活支援看護学

氏名：武田 洋子

【論文要旨】

本研究は、化学療法を受けている膵臓がん患者の健康関連 QOL の特徴を明らかにし、栄養に関連する指標および食の苦悩の実態との関連を検討することを目的とした。同意の得られた 33 名に自記式質問紙調査、診療録調査を行い、基本属性、診療関連情報、栄養に関連する指標（血清アルブミン値、CONUT 変法等）、食の苦悩、Functional Assessment of Cancer Therapy-Hepatobiliary（以下 FACT-Hep）を用いて QOL を評価した。分析は FACT-Hep の平均値で高低 2 群に分類し、他の変数との関連について統計的に検討した。その結果、FACT-Hep を構成する HCS が高い患者は血清アルブミン値も有意に高く、FACT-Hep の低い患者は食の苦悩が有意に高いことが示された。以上から、化学療法中の膵臓がん患者の QOL の向上には、食の苦悩に対する取り組みが必要とされることが示唆された。

(400 字)

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 武田 洋子

論文題名： 化学療法を受けている膵臓がん患者の健康関連 Quality of life の特徴と栄養に関連する指標・食の苦悩の実態との関連

審査委員：主審査委員 古瀬 みどり



副審査委員 齋藤 貴史



副審査委員 佐藤 和佳子



審査終了日：令和4年7月21日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

わが国の膵臓がんの年齢調整罹患率は14.3%（2018年）で増加傾向にある。初診患者の45%がStageIVと診断され、早期発見・治療が難しい癌とされている。膵臓がん患者のうつ発症率は80%、66～84%の患者が中等度以上の体重減少を呈しており、食に対する悩みや負担感を抱えていることが推察されるが、その実態は明らかにされていない。また化学療法を受けている膵臓がん患者のQOLは自覚症状に影響を受けることが明らかになっているが、栄養に関連する指標・食の苦悩との関連については検討されていない。本研究は、化学療法を受けている膵臓がん患者の健康関連QOLの特徴と栄養に関連する指標・食の苦悩の実態との関連を明らかにすることである。

対象者は外来化学療法を受けている膵臓がん患者33名である。調査内容は基本属性、診療関連情報、Functional Assessment of Cancer Therapy-Hepatobiliary (FACT-Hep)、栄養に関連する指標及び食の苦悩である。FACT-Hepを高値群、低値群の2群に分け、他の変数との関連を検討した。

対象者は85%がStageIV、Performance Statusは94%が0～1であった。FACT-Hep(0-180)の平均値は 117.1 ± 23.7 、Hepatobiliary Cancer Subscale (HCS: 0-72)は 49.8 ± 11.4 で、先行研究と同様の傾向を示した。中等度以上の栄養障害を示した患者は25～76%であり、FACT-HepのHCSが高く自覚症状の少ない患者は血清アルブミン値が有意に高いという結果であった。食の苦悩は49～58%の患者が「対処方法からくる苦悩」を抱いていた。QOLが低い患者は食の苦悩が有意に高く、中でも「患者と家族の関係からくる苦悩」はQOLに影響することが示唆された。

本研究は対象者数が33名と少数で、結果の一般化という点での課題はあるが、化学療法中の膵臓がん患者のQOL評価に関する先行研究は希少で知見の集積が求められている現状にある。また血清アルブミン値や患者が抱える食の苦悩とQOLとの関連が明らかにできたことにより、がん看護領域における看護実践に大きく貢献できる知見を得た。よって、本論文は新知見が得られており、看護学博士論文に相応しく、審査基準を満たしていると判断した。